

■殺虫剤：農業用

I GR(キチン生合成阻害剤)

アタブロン®乳剤

登録番号 : 17121
 毒性 : 一
 消防法 : 第2石油類
 有効年限 : 5年

成分 クロルフルアズロン……5.0%
 物理的・化学的性状 褐色澄明可乳化油状液体

包装 : 500ml×20

◆特 長

- キチン生合成阻害剤で、脱皮阻害作用があります。
- 既存剤の抵抗性害虫にも優れた効果を示します。
- 遅効性ですが低濃度で残効性に優れています。
- 有用昆虫に対する影響はほとんどありません。

◆適用と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	クロルフルアズロンを 含む農業の総使用回数
かんしょ	ハスモンヨトウ	2,000倍	100~300ℓ / 10a	収穫7日前 まで	5回 以内	散布	5回以内
だいず		2,000~ 4,000倍		0.8ℓ /10a			
		8倍					
		16倍					
	オオタバコガ	4,000倍					
えだまめ	ハスモンヨトウ	2,000~ 4,000倍					
	オオタバコガ	4,000倍					
さやえんどう	シロイテモジヨトウ			収穫前日 まで			
さやいんげん	ミナミキイロアザミウマ アズキノメイガ	2,000倍					
すいか	ミナミキイロアザミウマ	4,000倍	100~300ℓ / 10a	収穫14日前 まで	3回 以内	散布	3回以内
	ハスモンヨトウ	2,000倍					
メロン	ミナミキイロアザミウマ	2,000~ 4,000倍					
	タバココナジラミ類 (シルバーリーフコナジラミを含む) ウリノメイガ						
	ハスモンヨトウ	2,000倍					
トマト	オオタバコガ			収穫前日 まで			
ミニトマト	タバココナジラミ類 (シルバーリーフコナジラミを含む)						

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	クロルフルアズロンを 含む農薬の総使用回数
なす	ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ オオタバコガ アズキノメイガ	2,000倍	100~300ℓ/ 10a	収穫前日 まで	3回 以内	散布	3回以内
ピーマン	ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ オオタバコガ			収穫7日前 まで	4回 以内		4回以内
キャベツ	アオムシ コナガ ヨトウムシ ハスモンヨトウ タマナギンウワバ ハイマダラノメイガ			収穫14日前 まで	3回 以内		3回以内
はくさい	アオムシ コナガ ヨトウムシ ハスモンヨトウ タマナギンウワバ			収穫21日前 まで	2回 以内		2回以内
だいこん	アオムシ コナガ ヨトウムシ ハスモンヨトウ キスジノミハムシ			収穫前日 まで	3回 以内		3回以内
ブロッコリー	アオムシ コナガ タマナギンウワバ			収穫3日前 まで	2回 以内		2回以内
カリフラワー	コナガ			収穫前日 まで	3回 以内		3回以内
いちご	ハスモンヨトウ ミカンキイロアザミウマ			収穫21日前 まで	2回 以内		2回以内
ねぎ わけぎ あさつき	シロイチモジヨトウ ネギアザミウマ			収穫前日 まで	3回 以内		3回以内
レタス	ハスモンヨトウ			収穫3日前 まで	2回 以内		2回以内
オクラ	ハスモンヨトウ オオタバコガ ヨトウムシ	収穫前日 まで	4回 以内	4回以内			
ししとう	ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ オオタバコガ	収穫前日 まで	3回 以内	3回以内			

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	クロルフルアズロンを 含む農薬の総使用回数		
やまのいも やまのいも (むかご)	ナガイモコガ	2,000倍	100～300ℓ/ 10a	収穫7日前 まで	3回 以内	散布	3回以内		
みょうが (花 穂)	ハスモンヨトウ			収穫前日 まで	2回 以内			散布、但し花 穂の発生期に はマルチフィ ルム被覆によ り散布液が直 接花穂に飛散 しない状態で 使用する	2回以内
みょうが (茎 葉)				みょうが(花穂) の収穫前日まで 但し、花穂を収 穫しない場合に あつては開花期 終了まで					
エンサイ				収穫14日前 まで					
ふ き				収穫3日前 まで	3回 以内				
し そ		4,000倍	収穫14日前 まで	2回 以内	2回以内				
茶	チャノコカクモンハマキ チャハマキ ヨモギエダシャク	200～400ℓ/ 10a	摘採14日前 まで	2回 以内		2回以内			
た ば こ	ヨトウムシ	100～180ℓ/ 10a	収穫10日前 まで	1回	1回				
き く	ミナミキイロアザミウマ シロイチモジヨトウ	100～300ℓ/ 10a	発生初期	5回 以内	5回以内				
宿根かすみそう	シロイチモジヨトウ								

ラベルをよく読み、ラベルの記載以外には使用しないで下さい。

◆注意事項

- (1)使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2)本剤は植物体上での移行性がないため、茎葉部表裏に対し均一に散布すること。
- (3)本剤は幼虫の脱皮を阻害してやがて死亡させる性質をもつ薬剤で、通常、死亡するまでに7～10日以上を要するので幼虫期になるべく早く散布すること。
- (4)ねぎのシロイチモジヨトウの防除に使用する場合は、食入前の若令幼虫期に散布すること。
- (5)ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマおよびタバココナジラミに使用する場合、蛹、成虫に対しては効果がないので、発生初期の幼虫主体のときに散布すること。

- (6) だいごんのキスジノミハムシに対しては、1～2週間間隔で2～3回散布すること。
- (7) メロンに使用する場合、摘芯前（特に低温時）に散布すると、新葉及び花弁に薬害が生じる場合があるので、交配摘芯後に使用すること。
- (8) はくさい及びだいごんに使用する場合、幼苗期の新展開葉に散布すると白化などの薬斑を生じることがあるので、幼苗期、特に軟弱徒長苗や活着不良苗には使用をさけること。
- (9) 茶に使用する場合、新展開葉に散布すると白化などの薬斑を生じることがあるので注意すること。
- (10) さやえんどうに使用する場合、新葉に白化を生じることがあるので注意すること。
- (11) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- (12) 蚕に長期間毒性があるので散布された薬液が飛散し、桑に付着するおそれがある場所では使用しないこと。
- (13) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合に次の注意事項を守ること。
 - ① 散布は各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
 - ② 散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
 - ③ 散布中、薬液の漏れないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
 - ④ 散布薬液の飛散による他の分野への影響に注意して、散布地域の選定に注意をし、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
 - ⑤ 散布終了後は、次の項目を守ること。
 - (a) 使用後の空容器は放置せず、安全な場所に廃棄すること。
 - (b) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。
 - (c) 機体の散布装置は十分洗浄すること。また、薬液タンクの洗浄廃液は河川等に流さないこと。
- (14) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (15) 取扱及び保管上の注意、漏出時の措置、廃棄上の注意、輸送上の注意、火災時の措置については、11ページ、12ページを参照すること。

◆安全使用上の注意

- (1) 原液は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。
また散布液も眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
使用後は洗眼すること。
- (2) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、散布液調製時及び散布の際は不浸透性手袋、ゴム長靴、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意すること。
付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落とすこと。

◆魚毒性

- (1)水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2)無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3)使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。